

益救神社

益救神社は、10 世紀には官社として名を連ね、由緒ある神社としてその指定は現在も変わることなく続いています。ここで祀られている神は彦火火出見尊（山幸彦）です。神道神話では、山幸彦は天照大御神の曾孫で、日本の最初の天皇の祖父にあたります。凝灰岩で作られた 2 体の仁王像は、1831 年に制作されたもので、古い歴史を感じさせます。（仁王は古くから仏様の守護神）。本殿は、九州最高峰、標高 1,936 メートルの宮之浦岳山頂の巨石の間にある小さな祠です。神社のお祭りは、年に 1 度 4 月 29 日に開かれ、集落で最も大切な行事のひとつです。